

学校法人平安女学院
平安女学院大学短期大学部
機関別評価結果

平成23年3月24日
財団法人短期大学基準協会

平安女学院大学短期大学部 の概要

設置者	学校法人 平安女学院
理事長名	山岡 景一郎
学長名	山岡 景一郎
ALO	君島 茂
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	大阪府高槻市南平台5-81-1

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
外国語文化学科		50
保育科		100
	合計	150

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

平安女学院大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 23 年 3 月 24 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 21 年 7 月 10 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、明治 8 年に開いた Miss Eddy's School (エディの学校) からはじまり 130 年以上の伝統と実績をもつ名門女子短期大学である。

建学の精神「知性を広げ、望みを高くし、感受性を豊かにし、そして神を知らせる」、教育理念「躰・心得・愛」、教育目的「キリスト教の精神に基づく教育を通じて、自由で自立した人格を形成する」が確立しており、その教育実績は長い歴史が証明している。

平成 15 年には「平安女学院のミッション宣言」が作成され、学院が目指すもの、教職員の姿勢、育てる学生像を明確にし、運用面におけるガイドラインとなっている。

教育内容については、教育課程が体系的に編成され、幅広い教養科目が開講され、専門教育として十分な内容を備え、各学科の教育目的に即応した科目を配置している。各学科では、それぞれ関連資格が取得できるようになっており、資格、授業形態、卒業要件等も適切である。

教育環境、教育設備、教職員の配置は適切であり、短期大学設置基準を満たしている。

単位認定方法、単位取得方法は適切である。在学生向けの就職講座に卒業生を招き、実習園合同懇談会を開催し、卒業生の実情を把握する機会を設けている。

学生支援においては、学力のみならず精神的支援・経済的支援にも配慮があり安心して学生生活を営む体制が整えられている。

研究活動については、併設大学と合同で「平安女学院大学研究年報」に研究成果を発表する機会を設けており、保育科では「保育研究」、外国語文化学科では「英学」を刊行し、寄稿できるようになっている。専任及び特任教員には教員執務室が準備され、共同研究の促進を目的に合同教員執務室が設けられている。

地域との連携においては「どんぐりの森」に代表される活動などが、教育方針としてもまた学院の経営方針としても支えられており、結果として活動的な、元気な学生が地域社会で受け入れられている。

財務的には一時経営困難に陥ったが、ドラスティックな改革が実行され、現在では健全な方向に向かっている。理事長による強力なリーダーシップの下で理事会が毎月開催されるなど、組織全体の状況を把握するとともに迅速な経営判断を行っている。また、中期計画には着実な負債の整理計画と更なる成長の計画が明記されている。過去の急激な改革による人事面での歪みは既に解決されており、教職員のモチベーションによる更なる発展が期待される。

自己点検・評価規程にのっとり、全学的な取り組みとして自己点検・評価報告書を若手教職員中心に作成している。相互評価については、第三者評価を受ける前に2校と「教育理念・目標」、「教育活動」について実施して、自己点検・評価の客観性、妥当性を確認している。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- キャンパスには、日本聖公会から派遣されたチャプレン（学校付き牧師）が1人置かれ、そのチャプレンが、年間行事、毎日のチャペルアワー、学生寮での礼拝、「チャペル便り」の発行等にかかわり、学生の相談等も受けている。祈りから始まる学校行事を通じて、チャプレンが建学の精神及び教育目的の浸透に大きな役割を果たしている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 外国語文化学科の英語科目や保育科の音楽（器楽）では、習熟度別授業を行っている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 障がい者への対応として、バリアフリー化は十分な整備が完了している。また、

建物内のスペースが広く、学科関連の設備・施設が充実していて、学生は空き時間に、ゆとりをもって学習できる環境が整っている。

評価領域V 学生支援

- 学生に対する表彰制度として「学長賞」「アグネス賞」「エディ賞」が設けてある。マナーアップキャンペーン等、学生の意識喚起のための企画を積極的に行っている。

評価領域VII 社会的活動

- 「高槻市地域子育て支援拠点事業ひろば型」運営施設として学内に「どんぐりの森」を開設していることは、地域に開かれた大学としての位置付けを明確にしている。学生と利用者が交流する機会となっている。

評価領域VIII 管理運営

- 理事長のリーダーシップによる起案書については、5W2Hの全学共通フォーマットを作成し、どの教職員が記述しても漏れがないように工夫されている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域IV 教育目標の達成度と教育の効果

- 教育目標の達成度、教育の効果について検討を深めるための具体的な資料を得るため、卒業生及び進路先へ組織的アンケート調査を実施する体制を整えられると良い。

評価領域VI 研究

- 教員は研究時間の確保も必要であるので、長期休暇時の学外研修日制限等について、再検討されると良い。

評価領域IX 財務

- 学校法人としては負債が多いので、財務改善計画に従い、着実に実行することが望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神「知性を広げ、望みを高くし、感受性を豊かにし、そして神を知らせる」、教育理念「躰・心得・愛」、教育目的「キリスト教の精神に基づく教育を通じて、自由で自立した人格を形成する」が確立しており、学則第1条に規定されている。ウェブサイトでの公表とともに、オープンキャンパス、進学説明会、新入生ガイダンスで、「大学案内」「募集要項」「入学の手引き」「学生手帳」等が配布され、周知されている。平成15年には理事長により「平安女学院のミッション宣言」が作成され、学院が目指すもの、教職員の姿勢、育てる学生像を明確にし、教職員が朝礼時に唱和している。

評価領域Ⅱ 教育の内容

教育課程が体系的に編成され、幅広い教養科目が開講され、専門教育として、十分な内容を備え、各学科の教育目的に即応した科目を配置している。「学生による授業評価アンケート」の結果を担当教員にフィードバックし、各学科で改善策を検討し、学生にも意見や感想を公表し、改善を図っている。

各学科では、それぞれ関連資格が取得できるようになっている。資格、授業形態、必修・選択、卒業要件等も適切である。また講義要項の作成も適切に行われている。

授業内容、教育方法を改善するために、ファカルティ・ディベロップメント(FD)研修、授業評価の実施・分析を行っている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

短期大学設置基準の教員数の規定を充足し、教員は短期大学の教育を担う十分な経歴と研究業績がある。専任教員の業務が多岐にわたっていることから、実習事務職員を配置し教員との連携の下、学生指導や研究時間への影響を減らす努力をしている。教育環境は、教室、図書館、情報処理演習室、学生自習室等、併設大学との共有部分も多いが、大学全体としては整っている。また、学生が授業の準備や談話ができる教室が建物の随所にあり、ゆとりスペースを作っている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

学生生活に関する満足度調査では、外国語文化学科（前英語コミュニケーション学科）、保育科の学生は学生生活への満足度が高い。毎年、退学者は数人いるものの、退学、休学、留年等については、クラス担任を中心に、学科で学生とコミュニケーションを図っている。保育科の就職率は高い。卒業生からの評価についての組織的調査は行ってはいないものの、在校生向けの就職講座に卒業生を招き、「実習園合同懇談会」を開催し、卒業生の実情を把握する機会は設けられている。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学については、多様な選抜方法が提供され、入学後の学生生活に必要な情報提供も行なっている。また、入学後のオリエンテーションにおいても3日間かけて、教学、学生生活についての説明を行っており、手帳サイズの学生生活支援のための資料を分かりやすい説明で提供している。保育科の基礎学力不足の学生への経済的負担軽減を目的とした学校斡旋によるピアノ個人レッスンやクラブ活動のための顧問配置、学生会への運営支援に学生サービスチームが当たるなど学生生活支援体制が整っている。学生の休息施設、保健室、学生相談室も整備され、進路支援、多様な学生に対する支援体制も整えられている。

評価領域Ⅵ 研究

研究費は個人及び学科共同研究費を配分し、併設大学と合同で「平安女学院大学研究年報」に研究成果を発表する機会を設けている。また、保育科では「保育研究」、外国語文化学科では機関誌「英学」を刊行し、寄稿できるようになっている。専任及び特任教員には教員執務室が準備され、共同研究の促進を目的に合同教員執務室が設けられている。教員は論文発表、学会発表、国際的活動、社会的活動の実績を有している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

社会的活動を地域社会に対する使命のひとつと明確に位置付け、地域の多様な要請に積極的に応じている。また、「高槻市地域子育て支援拠点事業ひろば型」運営施設と

して学内に「どんぐりの森」を開設し、近隣の親子と学生との交流を図っている。学生会やクラブ活動単位による社会的活動を積極的に支援する体制を整え、活動が顕著であった学生、団体について、卒業式や学院の創立記念式典で表彰する制度を整備している。

評価領域Ⅷ 管理運営

最高意思決定機関として毎月理事会を開催して、学院の諸問題を検討している。監事はその役割を十分に発揮している。常務理事である事務局長は、理事会で決議したことを幹部教職員に伝え情報を共有している。

当該短期大学は、一時経営困難に陥り、現理事長が大学改革のリーダーシップをとることにより V 字復活した経緯を持つ。改革の成果は理事長のリーダーシップのみならず、全教職員の意識改革とモチベーションに裏打ちされており確固たる経営基盤を再構築している。入学者数は未だ定員を充足していないが、財務的に健全な体制が築かれつつある。

評価領域Ⅸ 財務

短期大学としては、消費収支計算書の財務比率は、ほかの同規模短期大学法人の平均値よりも良好な財務比率を示している。特に定員が充足していなくても、直近 3 ヶ年帰属収支差額比率がプラスを維持していることは、他には見られない特徴である。平成 22 年 6 月に理事会にて承認された理事長を委員長とした将来計画策定委員会による「中・長期計画」においては、平成 28 年度には市中金融機関から借入金の大半の返済を終え、財務比率が改善されることが明確に示されている。また、高槻キャンパスに短期大学の保育科と、併設大学の子ども学部、幼稚園、高槻市委託事業「どんぐりの森」を一体とした「子どもランド計画」を有している。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価規程にのっとり、全学的な取り組みとして自己点検・評価報告書を若手教職員中心に作成している。相互評価については、積極的に行っている。第三者評価を受ける前に 2 校と「教育理念・目標」、「教育活動」について実施して、自己点検・評価の客観性、妥当性を確認している。